



# 九州ツリーリズム 大学の軌跡

## ■(財)学びやの里の誕生

熊本県小国町は、近代医学の父北里柴三郎博士の生誕の地です。北里博士は、1853年小国町の北里に生まれ、6歳から寺小屋で学び始め、熊本の古城医学校でオランダの医師、マンズフェルトの教えを受けることにより、医学の道を進み始めます。1886年、北里博士はドイツに留学し、コッホ研究所に入り細菌学を研究、破傷風菌の純培養に成功し、免疫療法の道を開きます。北里博士は、自らの体験から学習することと、人との出会いの大切さを二つの言葉で伝えています。「終始一貫」と「人生は出会いである」と。

その意思を郷里に伝え、村人の実践

の場として、1916年に、学びのための「北里文庫」と交流施設「貴賓館」を建設寄贈されました。しかし、この「北里柴三郎記念館」も十分に活用されない状態になっていました。身近にある貴重な資源とその教えに気づかず、活用を忘れていたのです。小国町は、「まちづくり」の取り組みの中で、北里博士の意思と施設を活用した「学習と交流の推進」を始めました。その中心となる組織として、1996年(財)学びやの里を設立しました。

## ■九州ツリーリズム大学の設立

1986年から「学びやの里構想」を掲げ、町民の生活と文化を育む拠点とし



九州ツリーリズム大学  
学長 宮崎 暢俊

て、また、人づくりの場として、施設の整備を図ってきていました。1988年、研修宿泊施設「木魂館」とグラウンドを建設、1994年、食と健康の交流館「北里バラン」を建設しました。「全国山おこしシンポジウム」、「悠木の里スクール90」などのセミナーの開催、「小国美術フェスティバル」、「おぐに古楽音楽祭」などのソフト事業の展開は、多くの多様な人達との交流を生み出し、ネットワークを形成していきました。

この頃は、全国的に「地域づくり」の取り組みが活発で、小国の町にも、全国から多くの視察者や研究者が訪れました。多様で、深みのある(財)学びやの里の人材ネットワークは、このようにして形成されていきました。



多彩な講師による講義

1996年、「九州ツーリズムシンポジウム」が、研修施設「木魂館」で開催されました。熱意ある参加者たちから、ツーリズムに関する人材育成や実践的ノウハウを学ぶ場が欲しいとの声があり、(財)学びやの里での開催を約束しました。学習と交流のための各種施設が活用でき、ツーリズムに関する講師の人たちも把握できており、ツーリズム実践者たちとの交流も活発でした。特に、小国町は、このような新しい取り組みを理解してもらええる土壌が、まちづくりの展開の中で育っていたのです。

1997年、(財)学びやの里を事務



ツーリズム大学の様子

局に、九州ツーリズム大学が開校しました。

### 九州ツーリズム大学とは

大学は、毎年9月に入学式、3月に卒業式、その間毎月第1か第2週の土・日・月の3日間のスケジュールで行われます。講師には、地域づくりや環境教育の専門家、国際的なツーリズムの研究者、農家民宿や農家レストランの実践者などを全国から迎えています。カリキュラムは、「ツーリズム概論」や「地域づくりとツーリズム」などの基礎的な講義から、

ハム作りやパン焼きなどの「食の体験」、「農家民宿・レストラン体験」、そして、冬の風物詩「ウサギ追い」など多彩です。現在まで、全国から約1500人の本科生と聴講生が学び、ツーリズム「新しいたび」のリーダー、交流ビジネスの実践者など全国で活躍しています。

### 人材育成の手法

「地域づくり」は、地域の資源を活用再生していくことですが、そのためには、住民の意識を変えていくことが求められます。人材育成のため、「小国みらい塾」、「悠木の里スクール」など、各種研修の機会を創りましたが、学ぶ場より、人の五感を刺激する体験の場が大切だとわかりました。

小国杉で建設された小国ドーム(町民体育館)やゆうステーション(道の駅)は、デザインや工法の斬新さで、批判的な意見を含めて様々な話題を呼び、町民に大きな刺激を与



小国ドーム



涌蓋山と木魂館

えました。全国的にも珍しいジャージー種の牛乳からのバターやチーズが、町の「手づくりの館」で加工され、その後、ヒット商品の牛乳かりんとう、ソフトクリーム、ヨーグルトなどに展開されていきました。さらに、酪農家自らの、アイスクリーム加工販売のレストランや各種ジャージー酪農製品の加工場建設などにつながっていています。また、ツーリズム大学を卒業して、ドイツで食肉加工を学び、マイスターの資格を取得した青年は、ジャージーの子牛を使ったハム・ソ

ツーリズム大学の講師、学生の中に、子供たちへの環境教育やレクリエーションのリーダーたちがいました。子供たちが自然に接し、自然から学ぶことは、いつの時代でも大切なことです。2000年、(財)学びやの里が「おぐに自然学校」を開校しました。1泊2日〜1週間の自然学校は、「どんぐりのぼうけん」、「とんぼのがっこう」などの名称で開催され、子供たちの人格形成に大きく寄与しています。

2005年、(財)学びやの里に「小国町うるるん体験教育ツーリズム実行委員会」を創り、中学生の2泊3日の民泊体験教育の取り組みを始めました。農山村の日常生活に触れる旅といつていいでし

ーページ工房建設の準備を進めていきます。彼に続けと、ドイツでパン作りの職人を目指している青年もまもなく帰ってくるでしょう。小国黒豚の食材屋「黒豚屋」も大人気です。

このような展開は、まちづくり(注)から様々な刺激を受け、ツーリズム大学での体験が大きく影響しています。特に、多くの多様な人達との交流があったからです。

### 九州ツーリズム大学の波及



2泊3日の「うるるん農村体験」

よう。特に、おじいちゃんやおばあちゃん、子供たちとの交流は、生徒たちに大きな感動を与えています。お別れは、まさに「うるるん」です。受け入れ家庭は100戸以上あります。

小国地方の方言に「とっぱす」という言葉があります。新しいもの好きで、好奇心旺盛、何事にもチャレンジしていく氣質を表す言葉です。

農山村も、住民自らの活動で変化していくことで、時代の中に生き生きと蘇ってくるのです。

(注) 小国町のまちづくりは、地域資源の悠然たる大自然、悠久の年輪を刻む小国杉、悠々と噴き上げる地熱などの活用再生から「悠木の里づくり」と名づけられています。